

「エルサレムの滅び」に関する疑問に答える

出典：「JWTC エホバの証人をキリストへ」

ホームページ <http://jwtc.info>

なぜこのことを問題にする必要があるのか。この問題が明らかになれば、ものみの塔協会が教えている信仰が真理かどうか、明らかになるのである。もしエルサレム崩壊が、協会が説くように西暦前 607 年であるなら、キリストが 1914 年に目に見えない形で来られた、という協会の教義は可能になってくる。しかし、もし 607 年ではなく、歴史家が説くように西暦前 587 年であるなら、その教義は成り立たない。その場合、エホバの証人が宣べ伝えている「良いたより」は全くの偽りと化してしまう。このことは「信仰の根幹に関わる重要な問題」である。

(ものみの塔のアキレス腱 4 頁参照)

<ものみの塔協会の主張>

「七つの時」はいつから数えはじめられましたか。模範的な神の王国の最後の王であったゼデキアが、バビロニア人によってエルサレムの王座から除かれてから数えはじめました。(エゼキエル 21:25-27) ついに西暦前 607 年 10 月の初めごろまでには、ユダヤ人の主権を表す最後の名残となるものもなくなりました。その時までには、バビロニア人から責任を託されて残っていたユダヤ人の総督ゲダリヤが暗殺され、残ったユダヤ人はエジプトに逃げ去ってしまいました。(エレミヤ 40-43 章) 信頼できる聖書の年代記述は、ユダヤ人が捕囚から戻った年である西暦前 537 年の 70 年前にこのことが起きたことを示唆しています。すなわち、それは西暦前 607 年の 10 月初めに起きました。(エレミヤ 29:10。ダニエル 9:2。さらに詳しくは、「あなたの王国が来ますように」という本の 185-189 ページ参照。)

(「聖書から論じる」の年代 357 頁参照)

Q: アッシリアの滅びからエルサレムの滅びの年代が、ものみの塔の教えと歴史資料によるものとで 20 年ずれているのはなぜですか?

A: それはものみの塔協会が、エレミヤ・25:11, 12 や、ゼカリヤ・1:12, 7:5 の「70 年」を「エルサレムが滅びてから、ユダヤ人が故国に戻るまでが 70 年」と誤解したためです。彼らはバビロン崩壊の年 (BC539 年) の 2 年後にユダヤ人がエルサレムに帰還したと考え、BC537 年の 70 年前 (BC607 年) をエルサレムの滅びの年としてしまったのです。

エルサレムの滅びはネブカドネザルの第 18 年なので、BC607 年から更に 18 年前 (BC625 年) にカルケミシュの戦いが起きたと考え、その 4 年前 (BC629 年) をアッシリアの滅びの年と算定したのです。

Q: エレミヤ・25:11, 12 や、ゼカリヤ・1:12, ゼカリヤ・7:5 の「70 年」の正しい解釈は?

A: エレミヤ・25:11, 12

「そして、この地はみな必ず荒れ廃れた所、驚きの的となり、これらの諸国の民は、七十年の間バビロンの王に仕えなければならない。そして、七十年が満ちた時、わたしはバビロンの王とその国民に対して言い開きを求めることになる。」(新世界訳)

これはアッシリアをはじめとするバビロンの周辺諸国の滅びから 70 年後にバビロンが崩壊することを予告したものでエルサレムの滅びから 70 年ではありません。

実際に、BC609 年のアッシリアの滅びから 70 年後の BC539 年にバビロンは滅びました。

ゼカリヤ・1:12

「万軍のエホバよ、いつまであなたは、エルサレムとユダの諸都市に憐れみを示されないのでしょうか。この七十年の間、あなたはこれを糾弾されたのです。」(新世界訳)

BC539 年にバビロンが滅び、ユダヤ人は故国に帰って神殿の基礎を据えます (BC537 年) が、その後 18 年たっても神殿が完成しないこと (つまりエルサレムの滅びから 70 年近くなるのに神殿が完成していないこと) をゼカリヤは嘆きました。

ゼカリヤ・7:5

「・・・あなたがたが断食を行って泣き叫んだ時、しかもそれは七十年に及んだが・・・」(新世界訳)

ゼカリヤ書の「七十年」はどちらもエルサレムの神殿が破壊されて (BC587 年) から、神殿が完成する (BC515 年) までの約 70 年に言及していると考えられます。

※ものみの塔の主張するように「エルサレムの滅びからユダヤ人の帰還までが 70 年」なら、帰還してから神殿完成までに更に 22 年の年月がかかるので、ゼカリヤ書の記述は「九十年」でなければなりません。

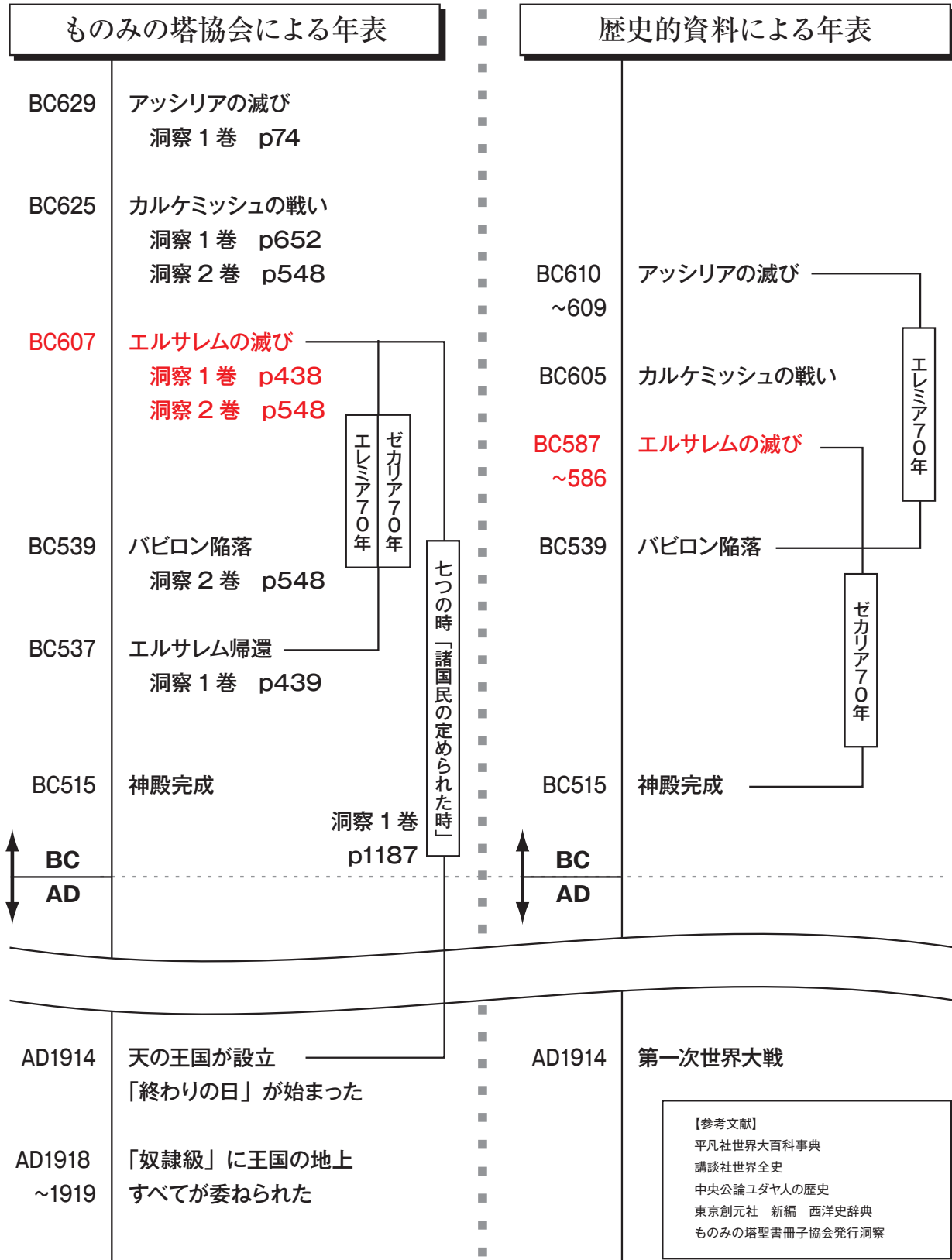
ものみの塔の年代は聖書の記述と矛盾し歴史的資料とも一致しません。

この資料は E・N さんの協力を得て作成いたしました。(2009 年 9 月)

作成者: JWTC 事務局

ダニエルの時代

エルサレムの滅びはいつか



ものみの塔協会の教えと聖書の不一致

ものみの塔協会は、エルサレムの滅びを西暦前607年とし、それを正当化するために、他の出来事の起きた年や、王の統治期間、聖書の記述まで自らの主張に合わせて変更を加えています。その実態をご覧ください。

1. アッシリアの滅び・・・ものみの塔はBC629年としています。
列王記第2の23：29によると、この年にエジプトのファラオ・ネコ2世がユダの王ヨシヤを殺害しました。
別表の通り、BC629年のエジプトのファラオはプサメティクス1世です。
歴史的資料によると、アッシリアの滅びはBC609年で、この時のファラオはネコです。
2. カルケミシュの戦い・・・ものみの塔はBC625年としています。
エレミヤ記46：2によると、「・・・エジプトの王ファラオ・ネコの軍勢に関して。彼はユーフラテス川のほとりカルケミシュにいたのであるが、バビロンの王ネブカドネザルは、ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの第4年にこれを打ち破った・・・」とあります。
BC625年はまだ、プサメティクス1世の時代です。
3. エジプト逃亡事件・・・エレミヤ44：30によるとエルサレム陥落後、一部のユダヤ人がエジプトに逃れ、その時のファラオはホフラであったことがわかります。
ホフラの治世はBC589～570なのでエルサレム陥落はBC607年ではありません。

エジプトの王の統治年は、そのすべての墓に刻まれているので、確定しています。聖書の記述と歴史的資料による年代は一致していますが、ものみの塔の主張は20年ずれています。ものみの塔協会は矛盾を認めようとはせず、聖書の記述にまで変更を加えようとしています。

ダニエル2：1には「・・・ネブカドネザルの王政の第2年、ネブカドネザルは夢を見た・・・」とあります。それが、洞察第2巻P. 422 「巨大な像に関する王の夢」で「ダニエル書によると、ネブカドネザルが金の頭の像の夢を見たのはネブカドネザルの在位期間の『第2年』（多分、西暦前607年におけるエルサレム滅亡の時から数えたものと思われるゆえ、実際には第20在位年をさす）でした。（ダニ2：1）・・・」

と、説明されるのです。聖書が「第2年」と記述しているのに「第20年」であると・・・。

聖書の記述を何よりも大切に考えているはずのエホバの証人が、この欺瞞に気づかない・・・こういうことを、「信者がマインドコントロールされ、組織のトップに盲従している」といわれるのです。多くの信者は、よくわからないことを自分で調べたり、自分の頭で考えたりしないで、丸飲みしてしまっています。

アッシリア、新バビロニア、エジプト、メデア・ペルシャの歴史とそれぞれの王の即位年など検証するなら、エルサレムの滅びはBC586年か587年であり、ものみの塔協会の主張は間違いです。

この資料は元エホバの証人E・Nさんの協力を得て作成いたしました。（2010年10月）
作成者：JWTC事務局

歴代の王の統治

| | バビロニア | ユダ | エジプト | |
|-------|-----------------------|---------------|----------------------|-------|
| BC650 | | | | BC650 |
| | | | 664～610 プサメティクス I | |
| | 625～605 ナボポラツサル | 640～609 ヨシヤ | | |
| | | 2ヶ月 エホアハズ | | |
| | | 609～598 エホヤキム | 610～595 ネコ II | |
| BC600 | | 3ヶ月 エホヤキン | | BC600 |
| | 604～562 ネブカドネザル II | 598～587 ゼデキヤ | 595～589 プサメティクス II | |
| | ----- ネブカドネザルの第18年 | エルサレムの滅び | ----- 589～570 ホフラ | |
| | 2年 アウilmアルドゥク | | | |
| | 4年 ネリグリツサル | | | |
| | 9ヶ月 ラバシマルドゥク | | | |
| BC550 | 555～539 ナボネドス | | 570～526 アマシス | BC550 |